

寫眞週報

內閣情報部編輯
六月五日・第九十號・第十七

昭和十七年五月五日刊 第一號 第五十九號





日き佳のこの勝大海本日

海軍記念日の當日海軍陸戦隊二個大隊の精銳は、海軍大演習を先頭に歩武堂、帝都市中を行進、宮城二重橋前に至り、敬虔な「捧げ鉄」を以て奉拜した

撮影
内閣情報部

これからの
強い紫外線で
眼を痛める
眼病に冒される！

眼病の正しい
お手當は

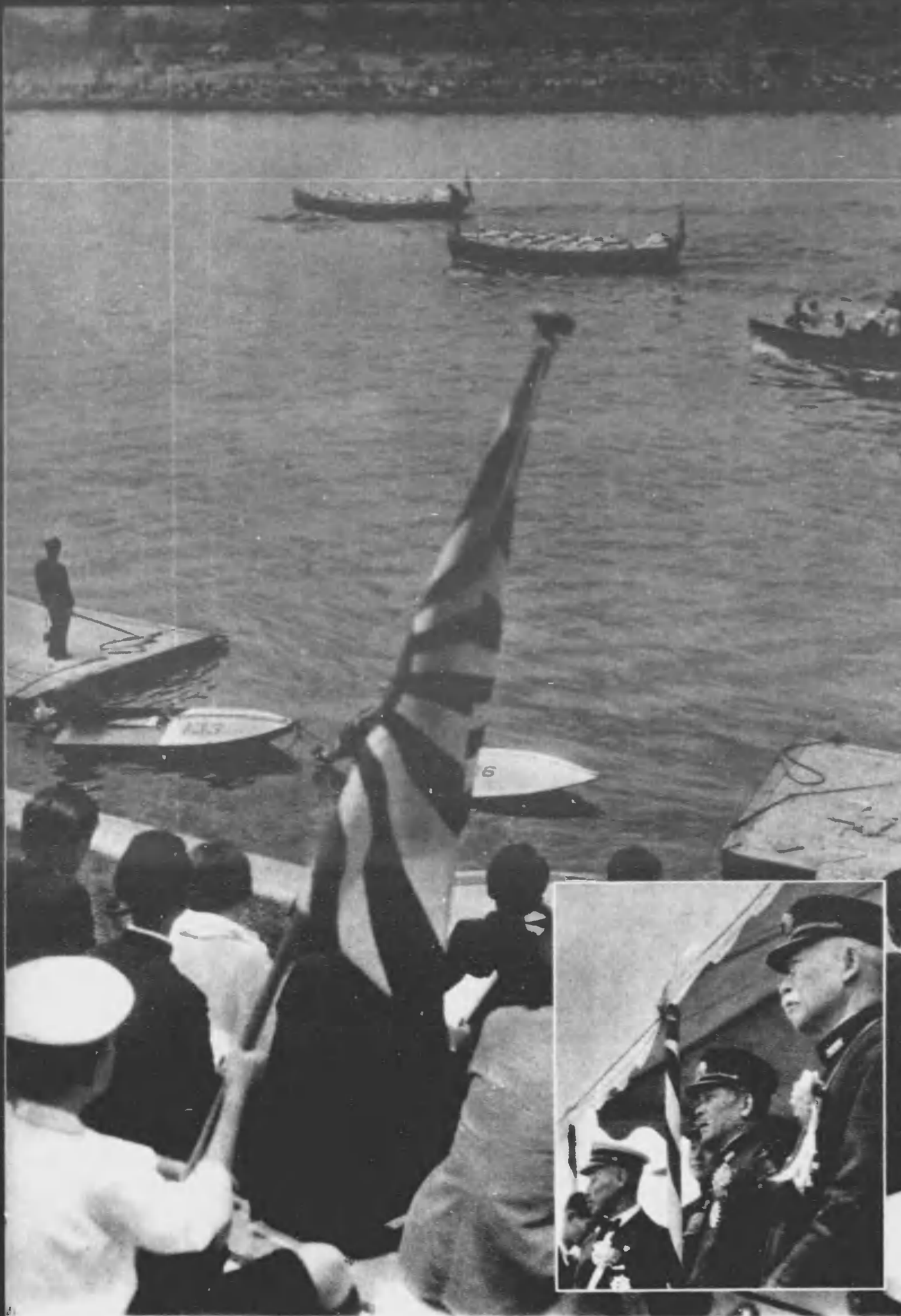
結膜炎でもトラホームでも
早い手當が何より大切で
殺菌消炎作用の優れたスマ
イルを一日数回、点眼して
ごらんなさい。眼ヤニや充
血も快くとれ。眼沖がサツ
パリして迅かに輕快します

二十五
四十五
各薬店にあり

新薬

ルイマス

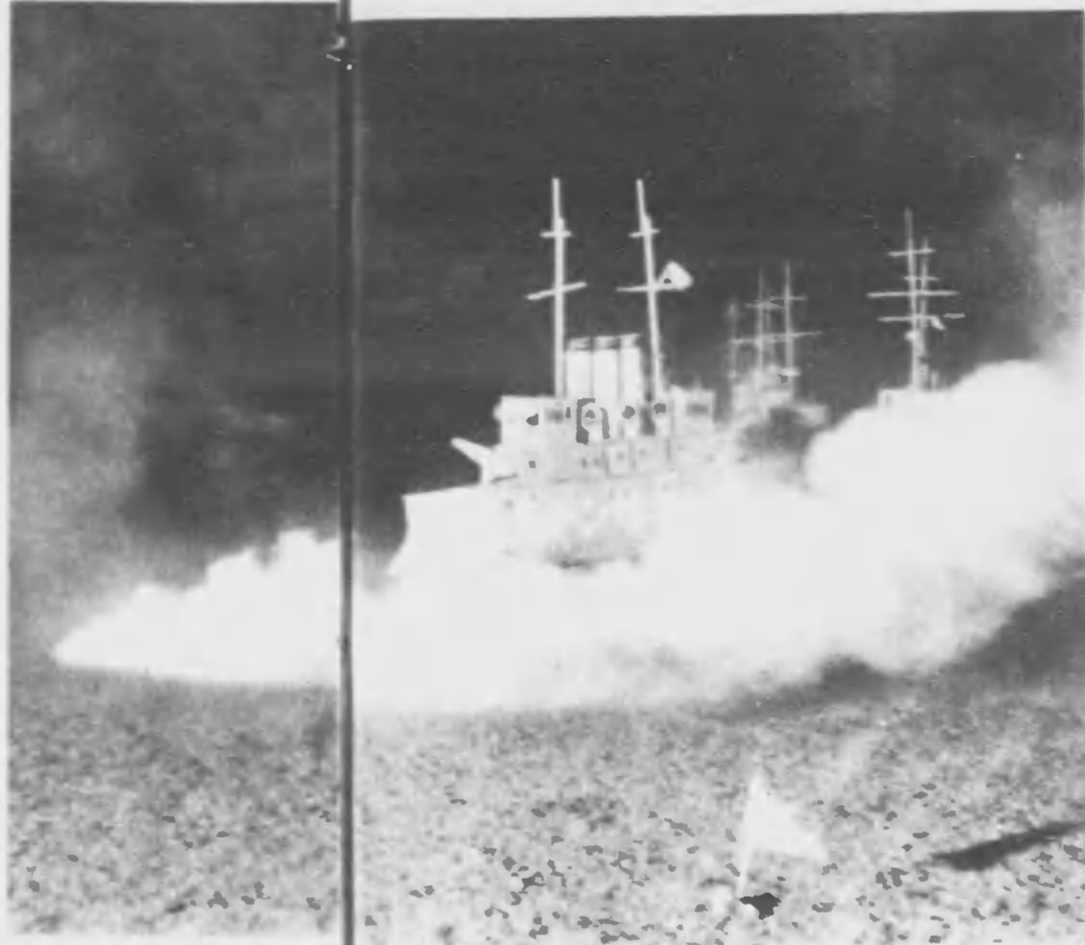
店商置玉 社合公 店理代總



日本海軍のこの佳き日

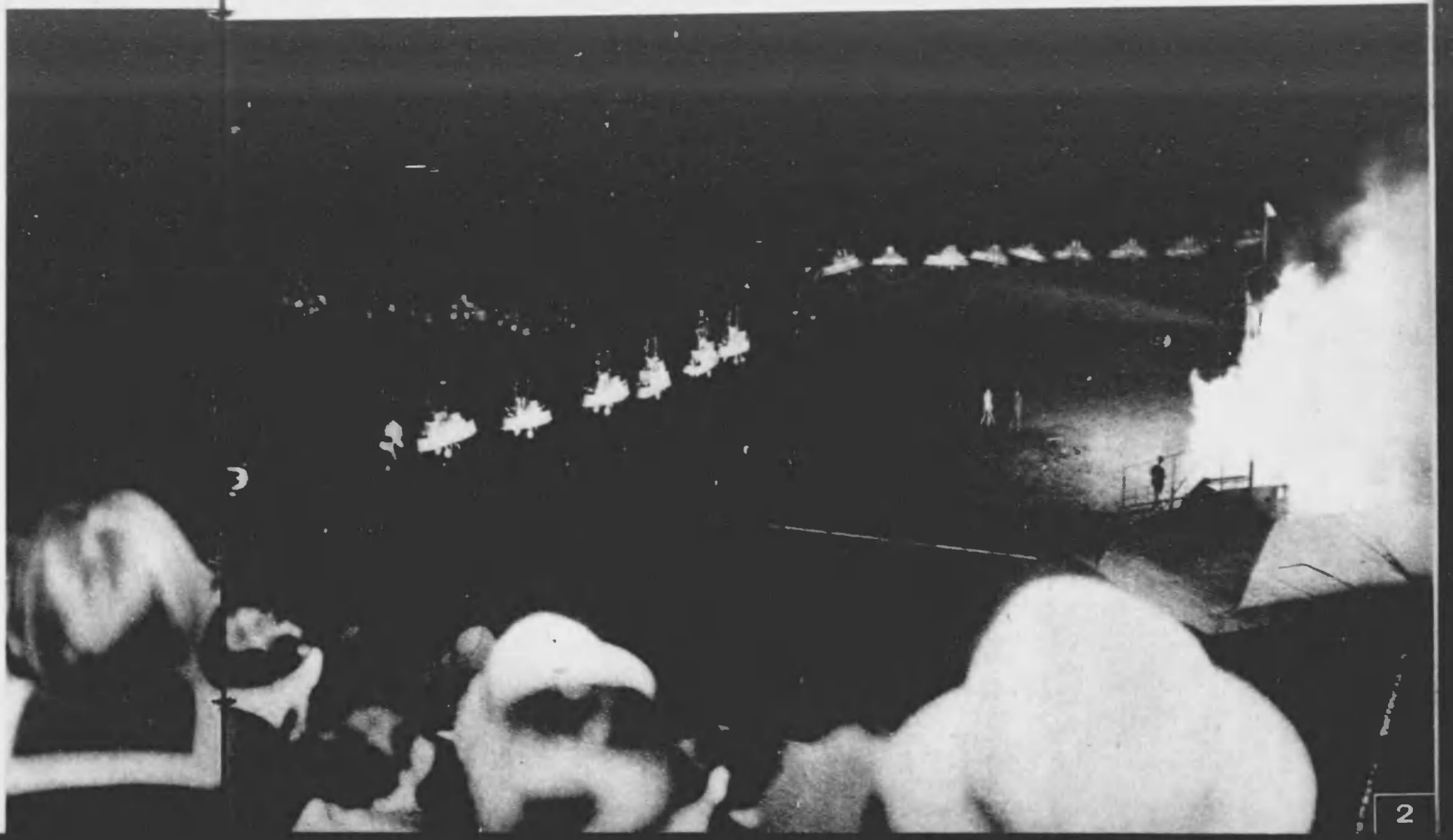
二十六日、新緑の
 隅田川に催された短
 艇操縦競技には比叡、
 夕張、姫島、瑞穂、横須
 賀助働隊の各艇クルー
 が出陣、海軍對抗のカ
 ンペリースは数萬觀
 衆の血をわかせた。特
 内中央は觀戰の吉田海
 相

風潮五月二十七日
 皇陛下三連日目の第三
 十五回海軍記念日を起
 へ、一億國民は三十五
 年前の日本海軍の恩
 ひ出を新らたにする
 とともに、今更に活躍
 したわれらの海軍に深
 い感謝の念をさしげた
 この佳き日を記念し
 全國各地には様々な
 しが舉行されたが、絶
 好の海軍日和に惠まれ
 た帝都では空に海軍の
 旗を舞ひ、陸に陸軍の
 大行進が繰りひろげら
 れ、前日から行はれた
 数々の催しと相俟つて
 海軍一色にぬりつがさ
 れた



日本海軍を勇躍せ
 る大ヘーシメント
 は二十六日夜小石川後
 樂園に展開された。出
 演は海洋少年團員百五
 十名、帝國聯合艦隊旗
 艦三隻をはじめ日露の
 模範軍艦五十五隻が出
 動、上田海軍閣下少佐
 の指導である
 今宵が聯合艦隊の
 猛撃に敵艦は忽ち四分
 五裂、一弾は見事「ア
 レキサンドル三世」號
 に命中した

都下の児童少年戦士
 學徒、婦人勞務者、勤
 勞青年等各分野の若人
 約一千名からなる吹奏
 樂大部隊は、二十六日
 朝日神社を境に大行
 進を開始した



戦線早急 炎熱百度



大陸の太陽は暑い程強烈に直射する。三月に入ると早くも兵隊達の熱苦への抗戦が開始される。六月、七月の突然下に行はれる行軍の暑さに耐えては、さういふ言語に絶するものがあつた。

水が飲みたい、甘い物が欲しい、いや欲しい、いさよふな心理的な嗜好の問題ではない、生理的な必要問題である。それがないければ身が持たない。さういふ絶対的な必要品である。水は、喉が乾いて、舌が乾いて、唾も出ない。喉が乾いて、舌が乾いて、唾も出ない。喉が乾いて、舌が乾いて、唾も出ない。

雨が降れば泥濘が足を取る、降らぬ日には黄塵が渦を巻く。時には性燥りもない敗残兵の逆襲がある。こんな苦痛と困難を幾十回、幾百回と繰り返して、矢張り兵隊達は南緯北緯といはれるこの大支那の地を、歩いても走っても、馬もな、たゞ日本の脚一本で戦場に歩き、戦い、勝ち進んで来たのである。そして未だこれからの命令、四川へでも甘肅へでも、四百餘州を渡して、片時も怠らぬ心身の訓練によつて、即ちかな勝利を宣いつつあるのだ。

津吉 英 男



中央政府の成立によつて、新支那の建設は着々と進められてゐる。だがこれでは事は進まない。未だ敵軍を倒つてゐる状態はこの新政府の成立を「武力に倒つた日本は政治的姿勢に代つた」と運用し、また「わが軍は強進進軍の戦術によつて日本軍に打撃を與へてゐる」などと、むしろ狂的なデマ放送で民衆の抗日熱をあつてゐる。

そこで行はれたのが今度の北支、中支（晋南、青陽、江蘇）遠征である。戦地はいま初夏の候ながら大陸特有の熱風が、吹きまくる。兵隊はわが兵は身熱とあらゆる苦痛を注して敵軍の進軍を遅らせてゐる。

道かなければ進をつくり、攻撃の手は限りなく続く。友軍は工兵、渡る歩兵、互ひに見合はす陣に熱いものか通ふ。

四百餘州から、抗日軍を追つて、地の果を知らない皇軍の力強い暑熱下の行軍。

架橋の工兵はもう果腹だ。橋の出来上るのを今かくと待つてゐる友軍のためを思つて飯を食つてゐる暇もない。

撮影 上海プレスユニオン 及、同輩通信社



近視は かろうして 防ぎませう

わが國は恥しいことながら世界一の近視國です。それが證據にあなた方の周囲の人々を
ご覧下さい！そこには必ず近視鏡をかけた
人があつてみえます。それも道理で、これを統計
によつてみますと、近視は全國小學生の三割
を占めてゐます。従つてそれが壯丁になる頃
には、二倍の六割にも増加することになりま
す。又事實高校生や大學生になると六割五分
から七割近くになるといふ有様です。しかし
この近視が、どの文明國にも一律にたくさん
あるといふならばやむをえません。が、わが國
のはダントツと飛抜けた有難くない世界一で、諸
外國の近視は、現在では國民の努力で撲滅し
つゝありますから問題にならぬ程少いのであ
ります。

ご存知のやうに近視は近いものは良く見え
るが、遠いものはボヤケてはつきり見えない
といふ一種の眼球の不具であり、一度罹つた
ら治らない疾病なのです。ところがわが國民
はこの近視を體力の缺陷として恥ぢるどころ
か、むしろ眼を酷使して眼鏡をかけることを
誇りと考へ、帽子をかぶる程にも気にしてゐ
ません。これは非常に間違つた考へであつて
是非改めなければならぬことです。

最近ますます増えつつあるわが青少年の近
視は國民の正常な健康體を保つといふ點から
も亦正しい視力を必要とする産業戦士として
の資格からも、國防上からみても由々しき大
問題であります。

この際われわれは近視を恥ぢる自覺を持ち
その豫防に全力を挙げ將來は『近視世界一』
の名を返上し、『炯々たる正視』をもつて世
界を睥睨しようではありませんか。ここに
その豫防法を紹介しましょう。



撮影 望月文吾

強いからだは近視を防ぐ
食物はよくかんで、充
分食べ、戸外に出て大
に日光に親しみませう。
そして運動も毎日規則正
しくしませう。
休み時間に運動もしな
いで直射日光の下で勉強
するのはやめませう。



読みよい見よい
書物を選べ
本や雑誌は大きい文字
のものを選び、見にくい
色刷りや、印刷の不鮮明な
ものは避けませう。文字
は軟い鉛筆で、濃く大き
く書きませう。

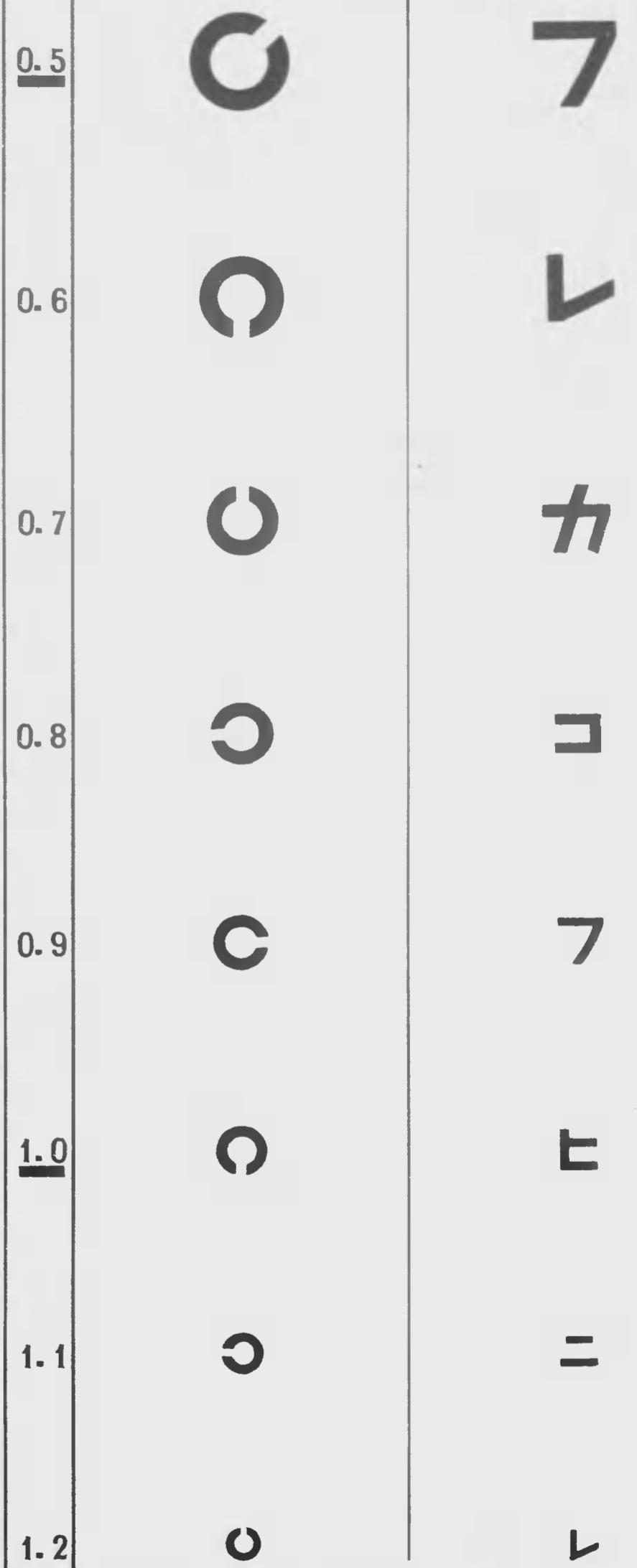


寝も夜も眼によい明り
勉強は充分明るい處で
しませう。ですがその場
合直射日光やギラ／＼す
るむき出しの電球は眼が
疲れますから避け、明り
は左上方からとりませう
寝ころんだり、寢床の中
で本は讀まぬことにしま
せう。

姿勢正しく・机で勉強
勉強するには、机に向
つて、眼と机の距離は三
〇センチ以上にし、上半
身をすつと起して真直ぐ
にしませう。
(一)机は十五度位の傾斜
を持たせたものがよい
とされてゐます。
(二)机、椅子の高さ割合
がからだの大きさに合
つてゐること。
(三)机と椅子とは離れ過
ぎないやうに深くかけ
ること。
如何に机、椅子が完全
でもこの兒童のやうにう
つむいたり、椅子のかけ
方が淺かつたりするのは
いけません。



あなたの視力は健全でせうか、この視力検査表で試してらんないかい。この表を直射日光や影などのさしやない一定の明るい所へ目の高さに貼りつけ、五メートル離れ、片目づつで表を覗んでみせう。そして一〇以下が見えなかつたらあなたの目は健全ではありません。早く眼科のお醫者に診ていただき、どんな性質の視力異常が果して近視であるか、それとも一時的の假性近視であるか、別の病氣であるか、しっかりと確かめてをきませう。



近視はかうして防ぎませう

假性近視

正常な眼は遠くを見るために遠方のものを網膜上に結びつける。

遠視は眼軸の短びるために遠方のものが網膜上に結びつきにくい。

假性近視は過度の勉強等のために調節筋が緊張した状態にある。そのため屈折が強まって遠方のものが鮮明に見える。

これは眼の休息と治療によって容易に治りますから本當の近視と間違えてはなりません。



お米の戦時態勢

全國へ食糧報國推進班

昔から「穀は國の命」といわれてゐる通り、長期戦をやりとげるためには、國民の食糧に少しでも不安があつてはなりません。従つて支那事變を完全にとりやめて、新しい東亞を建設してゆくわが國としては、どんなことであつてもこの食糧問題だけは解決してゆかなくてはなりません。このため政府は昨年さらさらましくなつた米の問題に對しても増産奨励は勿論のこと、或は全國一齊に七分揚米を用ひせるとか、清造米を液らしてこれを揚米の方に振り向けるとか、或は海外米を輸入するとか、いろ／＼な方法を講じて米の供給増進をはかる一方、また消費方面においても國民精神總動員運動を通じて、大いに節減を奨励してきつてゐます。

しかし、今日のわが國の米穀事情は、一段とこれを悪化しなければならぬので、先般改組された精勵も、その第一着手として米の問題を採上げ、戦時食糧報國運動を起して、從來の運動に一層の出力をかけることとなつたのです。

次に、戦時下食糧の確保、特に米の不安を除くためには、どんな名産が採られ、その効果を期待するためには、どんなことに實行されるべきかはならないか、増産、供米、節米に分つて節減に努めてみます。

増産にこの工夫

まづ、節減をはじめ一般の農作物の増産につ

いては、肥料とか、努力とか、農産物の増産とか、今年もいろいろ足りないものはあります。これに對しては、できることは自給肥料を増やすとか、共同作業、品種の改良などによつて、あらゆる不自給を打ち破り、更に都市の増産などに従軍の生産をまま放し置かれてゐる空地については、或は學生の勤勞奉仕などによつて、これをできるだけ活用し、農村、都市を通じて増産をはかるなければなりません。

お米は國の生命線

次に米の供出といふことですが、多いところには必要以上に浮山の米が保有され、無いところでは實際に必要なものまでが動かないといふことは、戦時態勢には、この一角から崩れ去ることになります。

結々辛苦の結果、美しき實つた米であれば、これを作られた農民からすれば、格別の愛着と誇りを感じ、また手放しにくいいろいろな事情もあるでせうけれど、日本のお米は、オセロと兵隊さんの戦場にあつて國を守る如く、日本國民の生命を守り育てる糧なのです。従つて一人にでも多くはつきり、本當に日本の米としての値打が發揮できたならば、それは直ちに、大御意としてわが國民を慈み給へ大君の大御心に謝意を感ずることとなり、強力日本建設の大きき力となるので

す。米のある方が無い方に出してやること、

これは取りも直さず、日本が真正面に突當つてゐる困難の一つを打破る、強力な武器なので

節米のやり方

増産で、米の供出とともに、粟下の食糧問題を解決する上にも、一つ大事なこと、消費方面における節米といふことです。このことは、これまで、随分やかましくいはれましたが、また、米の節減のところがあつたやうです。今般りに一俵の國民一日に一粒の米を節約しなると、一年には積つて五千石にもなる勘定なので、米の節減にせよ、今日は決して有り餘つてゐるわけにはないのですから、これを實行するに當つては、國民各自、節米のものと

なるものを作るといふことを常に考へて、例へば空地を利用して根菜類を作るといふやうなことが必要です。また節米の方法として最も量的に効果のあるのは代用食で、パンとかうどんとか、そばとか、ごぼうとか、さつまいもとか、さつまいもは事情の許す限り食ふ必要がありませう。次に關西方面では、毎朝雑炊やお粥を食ふ習慣があつて、既に實行してゐるものもあります。この粥

食や雑炊食、節米の上には大事なことです。また完全咀嚼、つまりよく噛んで食ふとか、共同炊事をするとか、七分揚米を用ひるとか、いろ／＼な方法がありますが、これらを實行するに當つては更に一般の家庭とか、會社、工場、學校その他、列車食堂、料理店、飲食

店などによつてそれらの節米目標額をきめ、實情に適するやうに工夫してやらなければなりません。精勵本部では一般家庭及び會社、工場、練山、學校寄宿舎などの節米目標は一割以上、官公署食堂、列車食堂、一般食堂、購買協會、旅館、料理店、飲食店などの節米目標は二割以上とします。また學校では、専ら教育の立場から、或は精神教育の方法として米飯の精神を傳付け、或は保健衛生の方面から、米食や適量食または完全咀嚼の指導をすることとします。

二十班の推進班出動

さてこのやうにして、増産、供米、節米と、戦時食糧の充實、確保についてはあらゆる努力が捧げられてゐるのですが、この効果をあげるについては、何んといつても國民一般がよ

うに、現下の米穀事情を知なければなりません。そこで精勵本部でも、米穀事情のほんたうのことを國民に知つて貰ひ、國民全般の協力を得るため、戦時食糧報國運動推進班といふものを各關係官廳、農業報國隊及び精勵本部の關係者によつて二十班を組織し、五月末から六月中旬にかけ全國各道府縣に出張、各道府縣毎に協議會を開き、現下の米穀事情その他、各般の事情について説明し、節米、供米、更に増産について協賛し、まゝ親しく生産者と膝を交へて供米や増産について懇談をすることにしたのです。

法幣とは何でせう

小栗 銀三

支那事務が始つてから、支那の法幣の問題がいろいろと議論の上で、
 漸く支那の法幣問題が、支那の
 政治の中心問題として、支那の
 政治の中心問題として、支那の
 政治の中心問題として、支那の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の



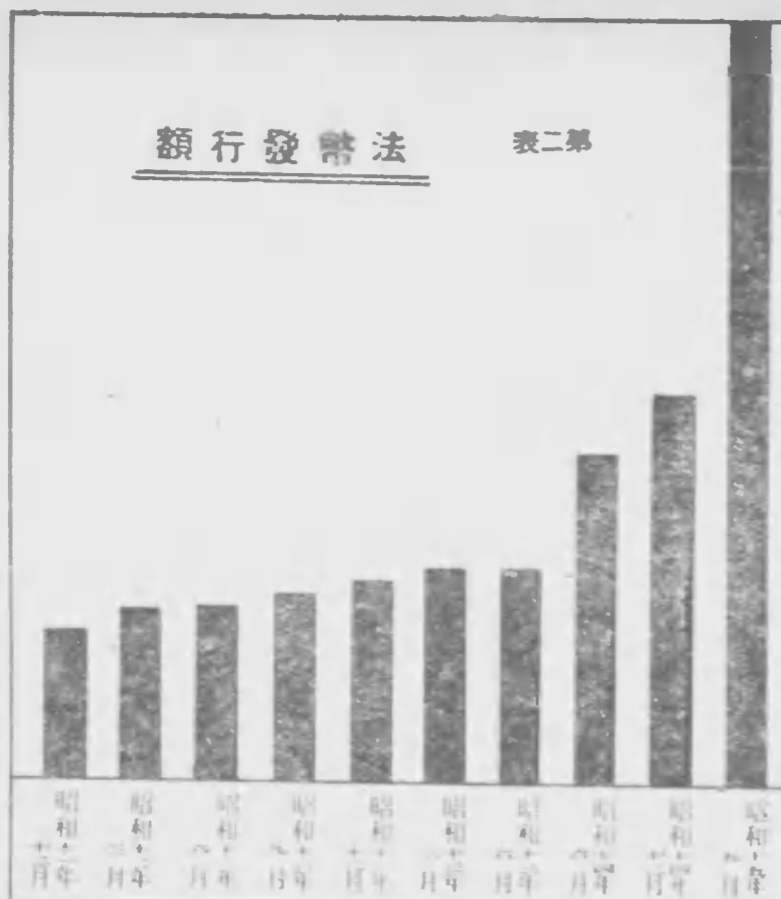
必要の問題として、支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の



第一表から分るやうに、支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の



持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

年月	中央銀行	交通銀行	農民銀行	合計
昭和二年十月	100	0	0	100
昭和二年十一月	120	0	0	120
昭和二年十二月	150	0	0	150
昭和三年一月	180	0	0	180
昭和三年二月	200	0	0	200
昭和三年三月	220	0	0	220
昭和三年四月	250	0	0	250
昭和三年五月	280	0	0	280
昭和三年六月	300	0	0	300
昭和三年七月	320	0	0	320
昭和三年八月	350	0	0	350
昭和三年九月	380	0	0	380
昭和三年十月	400	0	0	400
昭和三年十一月	420	0	0	420
昭和三年十二月	450	0	0	450
昭和四年一月	480	0	0	480
昭和四年二月	500	0	0	500
昭和四年三月	520	0	0	520
昭和四年四月	550	0	0	550
昭和四年五月	580	0	0	580
昭和四年六月	600	0	0	600
昭和四年七月	620	0	0	620
昭和四年八月	650	0	0	650
昭和四年九月	680	0	0	680
昭和四年十月	700	0	0	700
昭和四年十一月	720	0	0	720
昭和四年十二月	750	0	0	750
昭和五年一月	780	0	0	780
昭和五年二月	800	0	0	800
昭和五年三月	820	0	0	820
昭和五年四月	850	0	0	850
昭和五年五月	880	0	0	880
昭和五年六月	900	0	0	900
昭和五年七月	920	0	0	920
昭和五年八月	950	0	0	950
昭和五年九月	980	0	0	980
昭和五年十月	1000	0	0	1000
昭和五年十一月	1020	0	0	1020
昭和五年十二月	1050	0	0	1050
昭和六年一月	1080	0	0	1080
昭和六年二月	1100	0	0	1100
昭和六年三月	1120	0	0	1120
昭和六年四月	1150	0	0	1150
昭和六年五月	1180	0	0	1180
昭和六年六月	1200	0	0	1200
昭和六年七月	1220	0	0	1220
昭和六年八月	1250	0	0	1250
昭和六年九月	1280	0	0	1280
昭和六年十月	1300	0	0	1300
昭和六年十一月	1320	0	0	1320
昭和六年十二月	1350	0	0	1350
昭和七年一月	1380	0	0	1380
昭和七年二月	1400	0	0	1400
昭和七年三月	1420	0	0	1420
昭和七年四月	1450	0	0	1450
昭和七年五月	1480	0	0	1480
昭和七年六月	1500	0	0	1500
昭和七年七月	1520	0	0	1520
昭和七年八月	1550	0	0	1550
昭和七年九月	1580	0	0	1580
昭和七年十月	1600	0	0	1600
昭和七年十一月	1620	0	0	1620
昭和七年十二月	1650	0	0	1650
昭和八年一月	1680	0	0	1680
昭和八年二月	1700	0	0	1700
昭和八年三月	1720	0	0	1720
昭和八年四月	1750	0	0	1750
昭和八年五月	1780	0	0	1780
昭和八年六月	1800	0	0	1800
昭和八年七月	1820	0	0	1820
昭和八年八月	1850	0	0	1850
昭和八年九月	1880	0	0	1880
昭和八年十月	1900	0	0	1900
昭和八年十一月	1920	0	0	1920
昭和八年十二月	1950	0	0	1950
昭和九年一月	1980	0	0	1980
昭和九年二月	2000	0	0	2000
昭和九年三月	2020	0	0	2020
昭和九年四月	2050	0	0	2050
昭和九年五月	2080	0	0	2080
昭和九年六月	2100	0	0	2100
昭和九年七月	2120	0	0	2120
昭和九年八月	2150	0	0	2150
昭和九年九月	2180	0	0	2180
昭和九年十月	2200	0	0	2200
昭和九年十一月	2220	0	0	2220
昭和九年十二月	2250	0	0	2250
昭和十年一月	2280	0	0	2280
昭和十年二月	2300	0	0	2300
昭和十年三月	2320	0	0	2320
昭和十年四月	2350	0	0	2350
昭和十年五月	2380	0	0	2380
昭和十年六月	2400	0	0	2400
昭和十年七月	2420	0	0	2420
昭和十年八月	2450	0	0	2450
昭和十年九月	2480	0	0	2480
昭和十年十月	2500	0	0	2500
昭和十年十一月	2520	0	0	2520
昭和十年十二月	2550	0	0	2550
昭和十一年一月	2580	0	0	2580
昭和十一年二月	2600	0	0	2600
昭和十一年三月	2620	0	0	2620
昭和十一年四月	2650	0	0	2650
昭和十一年五月	2680	0	0	2680
昭和十一年六月	2700	0	0	2700
昭和十一年七月	2720	0	0	2720
昭和十一年八月	2750	0	0	2750
昭和十一年九月	2780	0	0	2780
昭和十一年十月	2800	0	0	2800
昭和十一年十一月	2820	0	0	2820
昭和十一年十二月	2850	0	0	2850
昭和十二年一月	2880	0	0	2880
昭和十二年二月	2900	0	0	2900
昭和十二年三月	2920	0	0	2920
昭和十二年四月	2950	0	0	2950
昭和十二年五月	2980	0	0	2980
昭和十二年六月	3000	0	0	3000
昭和十二年七月	3020	0	0	3020
昭和十二年八月	3050	0	0	3050
昭和十二年九月	3080	0	0	3080
昭和十二年十月	3100	0	0	3100
昭和十二年十一月	3120	0	0	3120
昭和十二年十二月	3150	0	0	3150
昭和十三年一月	3180	0	0	3180
昭和十三年二月	3200	0	0	3200
昭和十三年三月	3220	0	0	3220
昭和十三年四月	3250	0	0	3250
昭和十三年五月	3280	0	0	3280
昭和十三年六月	3300	0	0	3300
昭和十三年七月	3320	0	0	3320

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

持つてゐるものがある。支那の
 法幣の問題は、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の
 中心問題として、支那の政治の

文部省推薦映画 病院船

文部省推薦映画「病院船」は、山田洋次監督による、第二次世界大戦中の日本軍医の奮闘を描いた傑作である。...



山田洋次監督の「病院船」は、第二次世界大戦中の日本軍医の奮闘を描いた傑作である。...

文部省推薦映画「民族の祭典」は、山田洋次監督による、第二次世界大戦中の日本軍医の奮闘を描いた傑作である。...



山田洋次監督の「民族の祭典」は、第二次世界大戦中の日本軍医の奮闘を描いた傑作である。...

文部省推薦映画 民族の祭典

文部省推薦映画「民族の祭典」は、山田洋次監督による、第二次世界大戦中の日本軍医の奮闘を描いた傑作である。...

次代国民の育て方

2 ビタミン

竹内茂代

ビタミンは食物に含まれる。動物の生存に大切な役割を持つ。...

Table with 4 columns: 名称 (Name), 作用 (Action), 不足 (Deficiency), 食品 (Food). Rows include Vitamin A, B1, B2, B6, C, D, E.

ビタミンAは牛乳、バター、魚肝油に多く含まれる。...

ビタミンB1は米、小麦、大豆に多く含まれる。...

次代国民の育て方

3 ビタミン

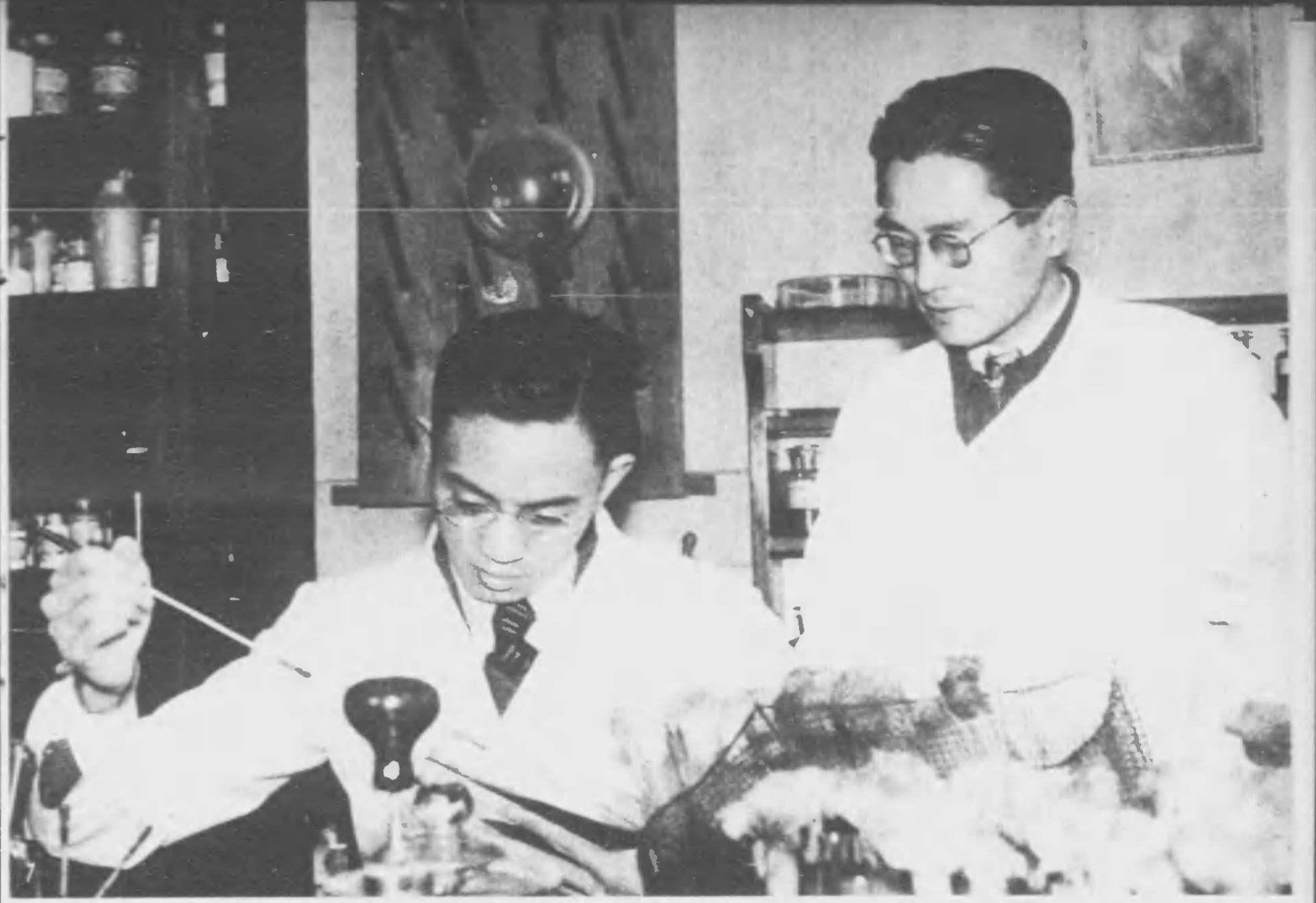
竹内茂代

Table with 4 columns: 名称 (Name), 作用 (Action), 不足 (Deficiency), 食品 (Food). Rows include Vitamin B12, C, D, E.

ビタミンB12は牛乳、卵、肉に多く含まれる。...

ビタミンCは柑橘類、イチゴ、ピーマンに多く含まれる。...

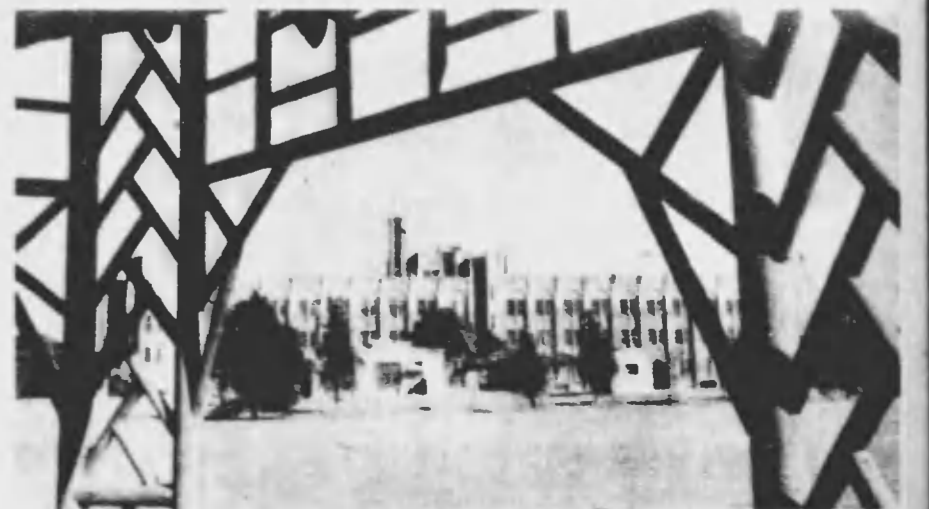
Advertisement for '幼見標準絵本' (Children's Standard Picture Books) by Shinjima Shoten, listing various titles like 'ノリモノチンキ' and 'カハノタビ'.



大陸建設に 日支協力の 科学陣

上海自然科學研究所

上海自然科學研究所
上海自然科學研究所
上海自然科學研究所



新大陸の建設に科学陣の参加を標榜して、日支の學徒が一致協同眞實な努力をこめてゐる科学の殿堂に上海の自然科學研究所がある。

この研究所は、世界の目覚ましい進歩から取りのこされた支那大陸の自然科學を日本學界の協力によつて振興せよとの目的で昭和六年開設されたが、後、滿洲事變、上海事變が起つて以來絶えず蔣介石下の舊國民政府から不當な壓迫を受け、眞實な研究をつゞけようとする日支學徒は非常な苦難と戦はねばならなかつた。

支那事變が勃發して上海が戦亂の巷と化したときも、研究所員は断乎として科學の低城を護つて離れず、幸ひ兵火を免れることが出来た。そこで變遷下にもかかわらず日支學徒は益々固く手を執り合つて研究に従事して来たが、今、日支協力の大陸建設が叫ばれるに至るや、研究所は全部門を動員、全所員が一致して建



設の大業に参加すべく立ちあがつた科學者として建設に協力するものうちでも、殊に資源の開発、各種産業振興の先驅として、今もなほ敵寇襲撃の出没する占領地域内を跋渉、種々な調査に従事する日支研究員の勞苦は銃を執る兵士と何ら變る所はない。既にかうした調査行中荒涼たる山野の果てに敵弾に撃れた人すら出してゐる。

大陸建設には何といつても科學研究がこの礎石とならねばならない。上海自然科學研究所はいまこの貴い礎石を築くべく調査に研究にかくれた努力を獻げてゐる。

- 1 醫學部細菌學科研究室には若い支那人學徒が日本人研究員の指導をうけつゝ、上海ではどんな種類のチフスチリヤが流行してゐるかを培養したチフスチリヤ菌で試験する。
- 2 草根・木皮・魚眼・岩石などを原料とする支那在來の漢方醫藥には科學的研究が行はねばならない。
- 3 理學部植物學科研究室の標本櫃には大陸のあらゆる植物の標本が標本として蔵されてゐる。この研究室での地味な調査研究がやがて大陸の森林畜産學の改良振興に役立つのである。
- 4 大陸各地に無盡蔵に埋蔵されてゐる礦産資源の開発のためにこの地質學研究室からは幾人かの研究員が過酷な各地に派遣され、その中には貴い犠牲者さへ出してゐる。今苦心して集められた各種標本の見本が整理され研究されてゐる。
- 5 物理學研究室の無線電通話實驗室では大陸の電氣通信事業發達のために眞實な實驗がつづけられ、わが青年研究員の一人は支那人助手と協力してラジオの電波の高解圍到達距離測定、高解圍の状態研究に時のたつのを忘れてゐる。

攝影 鈴木實

第一高等學校生徒十五名は北岡同校教授引率の下に、このほど佐世保を出帆、南支海軍部隊訪問見学の旅行を行った。一行は全日程三十九日間をわたり、廈門、汕頭、廣東、海南島北西南部、欽縣方面等殆んど南支沿岸の要地を一巡し、貴重な牧獲をあげた。本文は一生徒のいつはらさる印象記である。

島南海た見のちた僕



海南島には無数の牛が放牧のまゝ原野に彷徨してゐる。

こんど海軍各方面の非常な御好意によつて、南支沿岸の要地を訪ねることができ、色々といふ感動をうけ、自らの感想の湧き上るのを筆に得ない。今それの中から大なるもの三つを大括りに述べて見よう。

第一に所謂時局の認識である。今まで頭の中に單なる知識として集積されてきたものが、國民的な感情として澎湃と高まつて来たりを覚える。東亞新秩序といひ、東亞の大東といふ、一應の理解はできてをりながら、自分自身の死活的問題といふ血の叫びにまで到らなかつた。これらの言葉が、今や私の胸に強く燃えてゐる。

第二に海に對する認識を述べたことである。支那は大きいといふ。成程大きい。しかし海上を一巡したが見た所では、かへつて小さく小さいといふ感じを受けたといひ得る。大陸認識といふ點からいへば重大な誤りかも知れないが、しかし海が大陸に對していかに大きな役割を演ずるものであるかといふことをつくづく考へさせられた。現在日本がこの海を完全に抑へてゐることは實にすばらしい。それが餘りに完全なるがゆゑに、よきすれば、世人に忘れぬ勝た制海權確保の有難さをもう一度深く考へさせられ、海上封鎖部隊の勞苦に心からなる感謝の念を捧げなければならぬ。

第三に海南島に對する認識である。海南島が内地に對して傳へられてゐることは實に驚きであり、ある者は地獄のやうに、ある者は私に、いふたい。海南島は地獄でも寶島でもない。人間が住み、働き、努力と第で、成果をあげらるる所である。そしてその資源は未だ殆んど未知数であるが、未知数なるが故に私はこれを内輪に考へたいと思ふ。

以上は簡單でいひつくさぬ。他は、あるが、私の感想中の重要な三點である。

山今度の見學旅行で得た各地の印象は数多いが、こゝではそのうち最も深く私の胸に焼きついてゐる欽縣について述べよう。南支沿岸の激戦地としてまた世人の記憶に刻まれた欽縣の印象は何ともいへない。強ひて現せば實に凄壯、廢墟の二句に盡きる。欽州灣の邊境の中で、電光石火に繰り返した夜目にも生々しい道路をトラックに揺られ揺られて欽縣に入つた時は、既に夜も大分進んでゐた。同じやうな白い四角の家々が街路を挟んで闇の中に消えるともなく馬れてゆく。住民は一人も復歸せず、扉は皆固く閉ざされたままで人気がない。物狂はしいやうな聲がさす中に燐燐の光もわびしく、被れ切つて泥にまみれた兵士が苦しげに眠つてゐる。欽江は光も鈍く、どろりとして流れるとも見えぬ町の角々の歩道の鉄釘がヘッドライトにキラリ、ときらめく。私は海南島で様々な建設の姿を見、事變の明るい半面を力強くも眺めてきた。しかし、こゝで私の見たものは、戦争のいたましくも暗い他の半面であつた。海南島の明るさも、欽縣の暗さあつてこそであらう。だがこの地が再び光明の中に立ち歸るのには果していつの日であらうか。海南島と欽縣と、この對象に私は深刻にも興味深い戦争の姿を見たのであつた。

1 市のたつ日、土民は路々作物をひつさて日用品の交換に出かける。

2 島の上民である家族は細長い杵で米を搗き、俵を混ぜて粥として食べる。

3 米は海南島の主産物の一つである。土民は寫眞のやうな水車をふんで田に水をひく。

4 この島には所々に温泉が湧出する。日本軍占領前までは土民は神の怒りとして祠を建て供物を供へてゐた。今は海軍の手で清潔な風呂場ができてゐる。これは崖際附近の一温泉。

5 旅費を洗ふ一高の健児。

6 獨樂のやうなもの指先で廻して輪から糸を作りそれをからいふ原始的な方法で織る。

支那事變

報
國
債
券



貯
蓄
債
券

賣出 六月十五日 七月十日
一 枚 十圓 五圓

大藏省・日本勸業銀行

東京新聞 昭和十七年六月十五日 第一版

内閣印刷局印刷發行